


埼玉トヨペット 2019 RACE REPORT

Green Brave

Super Taikyu

【#68 埼玉トヨペット Green Brave GR SPORT マークX】

2019年3月23日(土)～3月24日(日)
 ビリスーパー耐久シリーズ2019
 第1戦鈴鹿 S耐“春の陣”
 鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)




決勝結果 (ST-3 クラス)

#68 埼玉トヨペット Green Brave
 GR SPORT マークX
 (服部尚貴/脇阪薫一/吉田広樹)
 決勝：3位
 (119周、5時間04分10秒997)
 予選：2位
 (20番グリッド)

3位表彰台を獲得し、順当なスタートをきる

スーパー耐久の開幕戦(5時間レース)が鈴鹿サーキットで行われた。埼玉トヨペット Green Brave はフル参戦4年目を迎えるマークXでエントリー。マークXには重量バランスの改善が行われている。ドライバーは服部、脇阪、吉田の新トリオ。チームの目標はずばり、ST-3クラスのチャンピオン獲得。そのため、初戦から必勝態勢でレースに臨んだ。ST-3クラスのエントリー台数は7台。

土曜日に行われた予選ではAドライバーの服部選手が2分15秒163、Bドライバーの脇阪選手が2分15秒640をマーク。合算タイム4分30秒803でST-3クラス2位につけた。1位は昨年のランキング2位、#62 レクサス RC350、3位は#15 フェアレディZ、4位は#14 フェアレディZ。前日の専有走行ではトップタイムをマークしていただけに、ドライバーの表情には悔しさがにじみ出ていたが、まずは順調な滑り出し。シーズンオフ中の努力が実を結んだ格好だ。

スタートドライバーの脇阪選手は序盤、2位をキープするが、ハイペースで走行する#62 レクサス RC350に離され、2台の間隔は徐々に開いていく。8周目、#15 フェアレディZに抜かれ3位へ。スタートから約1時間を経過した26周目にフルコーススイエロー (FCY) が導入され、3位走行中の脇阪選手は素早くピットに入る。吉田選手に交代し、給油のみでコースに復帰。この判断は吉と出ると思われたが、28周目に再びFCYが導入され、遅れてピットに入った#62と#38のレクサス RC350の方がアドバンテージを得る。吉田選手は34周目に#15 フェアレディZを抜き、3位へ。その後しばらく3位をキープする走行が続く。スタートから2時間となる48周目、コース上でアクシデントが発生。セーフティカー (SC) が導入される。SCは運悪く吉田選手の前に入り、上位2台の実質的な周回遅れに。リスタート後、吉田選手は3位をキープ。レースの半分を過ぎた64周目にピットに入り、服部選手に交代。給油とタイヤ交換を行いピットアウトする。直接的なライバルは3位を走行している#14 フェアレディZ。服部選手は力強い走りでのプレッシャーをかける。上位のピットインにより、86周目に3位、87周目に2位に浮上。服部選手は残り1時間をきった96周目にピットに入り、脇阪選手に交代。短い給油のみでコースに復帰する。順位は再び4位となるが、脇阪選手は3位の#14 フェアレディZとの間隔を急速に縮め、105周目にオーバーテイク。そのまま3位の座を守り抜き、チェッカーを受けた。なお、店舗メカニックは年間固定メンバー2人(山口、蟹澤)と星、神山、茂木の3人が参加。急なピットインに対応するなど高い適応力を発揮し、チームのリザルトに貢献した。

第2戦4月27日(土)～28日(日)

スポーツランドSUGO(宮城県・村田町)

DRIVERS VOICE



うまくいかなかったですね。クルマの調子も含めて、次戦までにいろいろ修正しないといけません。ライバルは順当にいているのに、うちのクルマにはスピードが足りませんでした。3位表彰台となりましたが、このつもりではなかったので、悔しいレースとなりました。(服部尚貴選手)

フリー走行でのクルマの調子は良かったのですが、予選からちょっとおかしいと思うようになりました。決勝では長くなればなるほど有利になることが多いので、希望をもって臨んだのですが、思いのほか、序盤のペースが悪く、その後の展開も不運な方向に進んでしまいました。(脇阪薫一選手)

自分たちが望んでいた表彰台の位置ではないのですが、シリーズチャンピオンを考えた最低限のところはキープできたのかなと思います。セーフティカーやFCYのタイミングなど、運が悪かったところもあったのですが、その中で3位を獲れたのは次につながると思います。(吉田広樹選手)

MANAGER VOICE

マネージャーの仕事は気遣いや気配りが大事と聞いていて、マニュアルにも書いてあったのですが、見るのとやるのでは違うことが多かったんです。ドライバーにどのタイミングで何を出したらいいかわからないのが大変でした。今回の経験を店舗に持ち帰って活かしていければと思っています。
(さいたま南支店・秋本侑香里)



ST-3 クラス決勝結果

順位	チーム	周回数
1位	DENSO Le Beausset RC350(レクサス RC350)	119周
2位	ADVICS muta racing RC350TWS(レクサス RC350)	119周
3位	埼玉トヨペット Green Brave GR SPORT マークX(トヨタ マークX)	119周
4位	岡部自動車 HIRIX☆YAMA☆Z34(ニッサン フェアレディZ)	118周
5位	5ZIGEN ADVICS RC350 TWS TRACY(レクサス RC350)	116周
6位	岡部自動車 Z34(ニッサン フェアレディZ)	116周

天候:晴 路面:ドライ ※トップ5 まで(出走 29台)

ST-3 クラスポイントランキング

順位	車番	チーム	ポイント
1位	62	Le Beausset Motorsports	32.0
2位	38	TRACY SPORTS	23.5
3位	68	埼玉トヨペット Green Brave	19.0
4位	14	OKABEJIDOSHA motorsport	16.0
5位	39	TRACY SPORTS	13.0
6位	15	OKABEJIDOSHA motorsport	10.0

※6位まで(7台中)

埼玉トヨペット Green Brave PARTNERS 協賛各社



赤城車体工業株式会社



株式会社アシスト・ワン



アルパインマーケティング株式会社



EMG ルブリカンツ合同会社



株式会社 FM NACK5



大宮クリーン社・大進カーエアコン



株式会社岡崎巧芸



株式会社カーグラス・JP



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



埼群スリーボンド株式会社



埼玉トヨペット陸送株式会社



株式会社テレビ埼玉



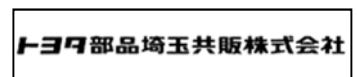
株式会社デンソーセールス



株式会社トイファクトリー
インターナショナル



株式会社トヨタカスタマイジング
& デベロップメント



トヨタ部品埼玉共販株式会社



トヨタホーム東京株式会社



株式会社トヨタレンタリース新埼玉



株式会社ハッピーライフ彩生



富士ゼロックス埼玉株式会社



株式会社プロモーション



丸和工業株式会社



丸和工業株式会社

※50音順